

今日も「ー」あがり♪

第41話

続・「やっちまった!!」という時に
現場の力になれるように!! の巻



皆さんこんにちは！家で一人で日本酒を飲んで宅配ピザを丸ごと食べたところ、トイレで全部リパースしてしまったロブストス高垣でございます。免疫力を高めなければという時期に何をしていますか？さて、見かけた方もいると思いますが、僕は毎日からし色のワークベストを羽織っています。長年通っている「Dry Bones」という洋服店の服で、前合わせの半月型ポケットが便利なんです。しかし僕は「群馬県で最も胸ポケットがパンパン」と称される男。シャープペン・ボールペン・蛍光マーカー黄&ピンク・マッキー・消しゴム・ノート・スケール・



写真1：特注で修復＆カスタマイズしてもらっているDry Bonesのワークベスト

「L字スケール・テーパゲージ・ポケットノギス・カッター・ペンライイト」——必要な道具を素早く取り出せることを追求する余り、はちきれんばかりに詰め込んでいます。ところが、このワークベストはそもそも僕のような使い方を前提に作られていないので、1年使い込めば生地が穴が空くわけです。そこで相談するのが、Dry Bonesの仲良し店長。特別に高垣仕様で、ベストの擦り切れる箇所を分厚い生地に変更して、裏地も二重にカスタマイズしてくれているんです!! 僕が農家さんのために農機具をイジるように、僕も洋服をイジってもらっています。応援の気持ちで込められた服を着て仕事に臨むと自然と力が湧くんですよ！というわけで、「やっちまったー!!」第二弾、長年使い込んだ作業機の修復案件をご紹介しますよ♪

商売の本質とは何か……

鳥取県の畜産関連施設から古い



高垣達郎 (たかがき・たつろう)
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロブストス代表取締役社長。

ディスクハローを修理して欲しいとの依頼。「遠隔地」「重量物」「要現場測定」の三拍子で、電話ではお互いにリスクが高く、難しいという雰囲気でした。でも、鳥取に行く機会があったタイヤ連結フレームがありました。ミスした職員さんが落ち込んでる……なんて聞けば断れるわけがない。「よし！ やりますか！」

その場でディスクハローを隅々まで測定。最終的に現場合わせで組み立てたほうが安心できる状況だったので、工程の9割を群馬で処理して、最終工程は鳥取で作業してもらう段取りに。フレームをぶった切って引っこ抜いてバラバラにして溶接し直す。口で言うのは簡単ですけど、とても手間がかかるんです。バカバカの穴の隙間に入り込んだ溶接ビードのせいでバラすのに手間がかかり、サンダーで綺麗にするだけで10時間以上。タイヤが平行に接地するように慎重に位置関係を確認しながら溶接して、完成〜〜♪

道具を長く使いたいと望む人がいて、その想いを形にする人がいて、本気で取り組んでも大金は手にできないかもしれないけれど、そこに商売の本質があると思っています。愛着だとか信頼だとか、大切にすべき喜びがあることを僕も洋服店に教わりましたから。ということですね！



写真2：鳥取で長年使用されていた年季の入ったディスクハロー（メーカー不明）



この部品は最後に
現場で位置を
合わせて溶接する

写真3：グニャリと曲ってしまったタイヤ連結フレーム（上）と、部品ごとにバラバラにして使える部品を再利用した修復品（下）。鳥取で溶接してもらって完成!!